

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 2 月 6 日  
東京電力株式会社

## < 1 . 原子炉および原子炉格納容器の状況 > ( 2/6 11:00 時点 )

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	15.6	106.6 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	25.7	5.10 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.1 m <sup>3</sup> /h	22.3	0.22 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.07 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- ・ H26/2/6 13:09 ~ 13:19 2号機について、今後の作業や工事において、炉心スプレイ系を停止して給水系で全量注水する対応が必要になることから、事前に給水系の全量注水試験を実施し、原子炉冷却状態への影響を確認するため、原子炉注水量総量(4.5m<sup>3</sup>/h)を維持しながら、段階的に炉心スプレイ系から給水系へ乗せ替える操作を実施する。最初の操作として炉心スプレイ系の注水流量を 2.5m<sup>3</sup>/h から 1.5m<sup>3</sup>/h へ、給水系の注水流量を 2.0m<sup>3</sup>/h から 2.9m<sup>3</sup>/h へ変更。
- ・ H26/2/6 11:05 頃 淡水化处理した淡水を原子炉注水用のタンク(パuffアタンク、復水貯蔵タンク)へ移送する配管の途中に設置されている、異物を除去するストレーナの圧力指示計より水が漏れいしていることを作業員が発見。圧力指示計の元弁を閉めたことで漏れいは停止。漏れいした水は、原子炉注水に使用する淡水化处理後の淡水であるが、淡水化处理した後に原子炉注水として再利用する配管には問題はなく、原子炉注水用のタンクへの水補給および原子炉注水への影響はない。

## < 2 . 使用済燃料プールの状況 > ( 2/6 11:00 時点 )

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.0
2号機	循環冷却システム	運転中	11.1
3号機	循環冷却システム	運転中	8.9
4号機	循環冷却システム	運転中	13.6

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・ H25/11/18 15:18 ~ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。

### 【5号機】

- ・ H26/2/6 9:14 ~ 5号機の使用済燃料プール水の透明度が悪く、燃料取り出し作業に影響を与える可能性があることから、使用済燃料プール内の燃料取り出し準備作業として使用済燃料プール水の一部を入れ替えるため、使用済燃料プール冷却を停止(停止時の使用済燃料プール水温度は、15.5)。同日 9:21、原子炉水冷却(残留熱除去系原子炉停止時冷却モード(SHC))を停止(停止時の原子炉水温度は、32.8)。また、同日、使用済燃料プール内に仮設浄化装置によるプール水の浄化を開始。

使用済燃料プール冷却、原子炉水冷却ともに約 12 時間停止予定であるが、残留熱除去系原子炉停止時冷却モード停止中の原子炉水温度上昇率は 0.5 /h で停止中の炉水温度上昇は約 6 と評価されることから、運転上の制限値 100 に対して十分余裕があり、原子炉水温度の管理上問題ない。また、使用済燃料プールについても冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.3 /h で停止中のプール水温上昇は約 4 と評価されることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

### < 3 . タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物 減容処理建屋 [ 高温焼却炉建屋 ]）	1/24 14:37 ~ 移送実施中

### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > （2/6 11:00 時点）

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 （サリー）	除染装置	淡水化装置 （逆浸透膜）	淡水化装置 （蒸発濃縮）	多核種除去設備 （ALPS）
運転 状況	停止中	運転中 <sup>*1</sup>	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。

### < 5 . その他 >

・H25/1/29～ 凍結管を設置するための削孔については、掘りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。

・H25/10/29～ 2, 3号機海水配管トレンチ内の滞留水の放射能濃度を低減するモバイル式処理設備については、処理装置の設置が完了したことから、11/3 から実施している吸着塔の通水確認を含めた使用前検査を受検中。その後、11/11、原子力規制庁からのモバイル式処理設備使用の承認（タービン建屋等へ移送する配管などを除く）が得られ、H26/2/3、原子力規制庁からモバイル処理設備の使用前検査と溶接検査の終了証が交付された。

H25/11/14 10:53～ 2号機側のモバイル式処理設備について、本格処理（連続）運転を開始。

H25/11/15 12:35～ 3号機側のモバイル式処理設備について、本格処理（連続）運転を開始。

・H26/2/6 1号機原子炉建屋1階南側エリアの汚染状況調査のため、床面のコアサンプル（3箇所）の採取を実施。

・H26/2/6 8:50 頃 福島第一原子力発電所登録センター<sup>(\*)</sup> 1階の火災報知器が発報したことから現場を確認したところ、同センター内の機械室から水が出ていることおよび2階で発煙があることを協力企業作業員が発見。同日 9:10、消防へ通報。なお、モニタリングポストおよび構内ダストモニタの値に有意な変動はなく、けが人は発生していない。

現場確認の結果、登録センター内機械室の空調設備のヒーティングコイルが破損し温水が漏れた影響で、湯気が発生していることを当社社員が確認。当該コイルの通水元弁を閉にし、同日 10:14、温水の漏えいが停止。機械室内の雰囲気線量は、 $3.0 \mu\text{Sv/h}$  であり、床面等からは汚染は確認されていない。

その後、消防による現場確認の結果、火災報知器の警報発報については、同日 10:45 に、消防から「これ以上の災害に発展する恐れはない」と判断された。明日（2/7）火災発生有無の調査のために、消防立会のもとで機械室内の空調設備のモータの分解点検を行う予定。

（\*）登録センター：現在は協力企業作業員の休憩所として利用されており、入退域管理施設の北側にある建物。

・H26/2/6 10:50 頃 5, 6号機北側のFタンクエリアに設置しているAタンクとBタンク（A, Bタンクともに、5, 6号機タービン建屋地下滞留水を貯水）の間にある流量調整弁と逆止弁間のフランジ部より、水が鉛筆1本程度の太さで漏れていることを当社社員が発見。漏れた水は堰内に留まっているが、一旦ビニール袋での養生を実施。なお、モニタリングポストの指示値に有意な変動は確認されていない。

その後、AタンクからBタンクへの移送配管のAタンク側出口フランジ接合部を切り離して配管内の残水を抜いたことにより、同日 12:08、フランジ部からの漏えいが停止。

#### 【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

##### < トピックス >

・H25/12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

##### < タンクエリアパトロール実績（2/5） >

・高線量当量率箇所（ + 線（ $70 \mu\text{m}$ 線量当量率））は確認されず。

- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

< H4 エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・H26/2/5 H4 エリアタンク周辺の地下水観測孔 E-11 のサンプリングを実施（初採取）。分析結果は以下の通り。[観測孔 E-11 の分析結果：2/5 採取分] 全ベータ：110 Bq/L
- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】**

< トピックス >

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット（南）地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は 2/6 0:00 時点で約 7,623m<sup>3</sup> \*集水ピット（南）およびウェルポイントの総量

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 移送関係 >

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント（バキュームによる強制的な排水設備）からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔（No.1-16(P)）からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

< トピックス >

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H26/1/30～ 地下貯水槽 No.1～3 における貯水槽内部の残水について、H1 東エリアタンクへの移送を適宜実施。

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上